

「『**「**『**彼がねじねじめ**』をねじせ」

ルナ・スさん

「**「**この本、読みたくないな。」

ひょいしにかかれたネコを睨む、ほくは顔じまつた。ほくは犬をかうじるのや、かなしい顔だと気づいたからだ。ほくは、かなしい顔がきらいだ。その時、お姉ちゃんが顔じました。

「わら後は、えがおになるからだじゅうふ。」

ほくは、えがおが好きだから、少しぬねじけれど読みないとこまつた。

いの本を読んで、谷口くんのウンは「**『**『**彼がねじねじめ**』」だと思じました。谷口くんは二回ウソをつきました。ネコのボーカルへじてうだのに、お母さんには箱の中につたと書いて、かういとこまつた。森くんがかってこぬアムとポーがにてるのに、そのひとを森くんからかくしました。ウンをりくどみんなの顔からえがおがうせられました。

でも、お姉ちゃんが言つた通り、たゞ後はみんなえがおになりました。谷口くんが、ボーカルへじれなこと正直に書つたから、森くんはアムに余るました。そして、みんなにえがおがわざつたのです。ほくは、「**『**『**彼がねじねじめ**』」がいなくなつたよかつたな、と思じました。

ただ、ゼンぶのウンを、なくたなくともいじ氣がしました。きのうのどちらじを思ひ出しましたからだ。

きのう、せくはウンをつきました。お母さんのあたん生日カードをじゅんじじつたともです。お母さんから何をしてくるか聞かれて、ちがうひとをつじふと答へました。でも、えがおはうばわれませんでした。理由は二つあります。一つ目は、相手によろいじなどやういためのウンだったから。二つ目は、後で正直に返さねるウンだったからだ。

今回、ウンには餘るなじめることがあることが分かりました。中でも、「**『**『**彼がねじねじめ**』」のウンはよくあります。えがおをまわるために、ねじねじめいと腰こまつ。